

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101524		
法人名	有限会社サン・リンク		
事業所名	グループホーム陽恵苑(Aユニット)		
所在地	島根県松江市馬潟町104番地1		
自己評価作成日	平成23年2月4日	評価結果市町村受理日	平成23年5月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://lllp://kouinyou-c.tukushii=shimane.or.jp/in/kaigosin/infomationPublic.do?JCD=3270101524&SC
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成23年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・自分らしく生活していただけるためにもご本人の出来る機能を生かし個人の尊厳を大切に個別のケアを今後も継続していきたい。
 また口腔ケアの維持向上にも積極的に取り組み利用者の健康維持と、いつまでも口から食べることへの支援を継続していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の行きたい所、したいことを実現させるために個別ケア計画を立て、家族とも協力しながら実践している。半年に1回、利用者、家族にも参加してもらって担当者会議を開き、現状報告を行いながら要望を聞き介護計画に反映させている。医師との連携が図られ、事前に状況を報告することでスムーズな受診支援ができるようになった。歯科医師の協力で口腔ケアの維持向上に取り組み、自力で食事が摂取できるようになった利用者もいる。今年度から毎月担当職員がコメントを付けて家族に便りを発行するようになり、一人ひとりの職員の意識にも変化が表れてきている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101524		
法人名	有限会社サン・リンク		
事業所名	グループホーム陽恵苑(Bユニット)		
所在地	島根県松江市馬潟町104番地1		
自己評価作成日	平成23年2月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成23年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・自分らしく生活していただけるためにもご本人の出来る機能を生かし個人の尊厳を大切に個別のケアを 今後も継続していきたい。 また口腔ケアの維持向上にも積極的に取り組み利用者の健康維持と、いつまでも口から食べることへの 支援を継続していきたい。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p></p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	○理念は職員がいつでも見れるようABユニットの廊下に掲げているが、常に認識しながらの行動はできていないが、利用者の尊厳が守られるよう心がけている。	職員一人ひとりが理念を根底において実践に努めている。	全職員で理念について話し合ったり、定期的に見直しをすることを望みたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	○地域運営推進会議、地域の公民館でのよらこい喫茶、地域の神社の祭り、もちつきに参加など、機会があればできるだけ参加している。	公民館での「よらこい喫茶」に参加したり、利用者の作品を地域の店に展示してもらうなど交流に努めている。バーベキュー会は地域交流行事として継続して取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	○地域の方にも認知症の人の理解をさせていただけるよう交流会や、災害時の協力などをお願い出来るよう日頃から行事参加などにも声をかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	○運営推進会議においては、利用者の現状報告、サービスの実態、取組について報告し、包括支援や介護保険課などの情報を共有し、サービス向上に役立てている。	利用者の現状報告やホームの取り組みなどを報告し出席者と情報交換をしている。参加者が限られているので次年度は工夫したいと考えている。	運営に外部の人の声が反映されるような会議になることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	○運営推進会議においては市の介護保険課のご意見を伺ったり、不明な点があれば積極的に出掛け意見を伺い反映できるようにしている。	聞きたいことや困ったことなどはすぐに相談し連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	○身体拘束については日ごろから職員間で話し合い、拘束にならない対応について検討し危険を伴う場合に関しては家族に十分な説明を行い同意を得て出来るだけ短時間で対応を心掛けている。	職員間で話し合いながら身体拘束をしないケアに努めている。転倒骨折の危険のある場合は家族と話し合いながら対応している。	チェックシートなどを活用し、定期的に振り返る場を持っていただきたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	○利用者の尊厳を守るためにも、会議等で話し虐待防止に努めている。研修等にもできるだけ参加できるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	○権利擁護については、親族の関係が薄い方など今後はかかわっていく必要があるのですが、研修は今年度は出かけていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	○契約の締結、解約、改定の際は十分な時間をとり十分説明し、理解を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○年2回家族様との交流、面会時のご意見、要望事項、伺い、会議、文書等により周知反映させている。	行事の前に家族と話し合う場を持ち意見を聞いている。面会表の徹底や食事への要望が出され、すぐに改善している。運営推進会議に参加しにくい家族が増えている。	運営推進会議や行事への参加家族が少ないので、家族と情報を共有する工夫をしながら意見の引き出しに努めていただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	○毎月の会議の中で意見や、提案事項については検討協議し反映させている。	管理者は、会議や現場の様子を見ながら職員の意見を聞くことに努め、職場環境の改善などに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	○職員の要望事項を踏まえ、現在、勤務体系の見直し、パート業務の時間見直し、年間休日の見直し、など、職場環境をと整える等検討中である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○現場での実践指導、外部研修、等により個人の能力、適性を考慮し、研修後の内部研修、「AEDの使い方」など研修の参加に今年度は力をいれた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○同業者との連携、訪問、など部会での交流を機会に情報交換などサービスの質の向上に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	○新規入居にかかわる際、事前に訪問、見学など入居当初に不穏のないよう本人の気持ちを傾聴し不安を取り除き安心してサービスが受けれるようコミュニケーションを重ね信頼関係を築く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	○サービスの利用前に事前に訪問及び見学いただき、情報交換を行い、家族の思い、要望など傾聴し、家族との信頼関係を築き、言いやすい環境を作る中でサービスに生かしていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	○本人の担当ケアマネ等の連携を密にし、本人と家族が安心してサービスが受けられるよう情報の共有を行い早く環境に慣れていただくためにもこまめなケアや、個別の対応を行い安心してサービスが受けれるよう努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	○ご本人の能力を生かし生きがいのある生活ができるよう本人の意向に沿うよう協調した関係を築くように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	○面会時には近況を説明し、万代店やご本人の様子を共有し、また本人が家族と安心して過ごしてもらえ環境を心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	○家族や、親族、友人の面会時はゆっくりくつろいでいただけるよう環境づくりを行っている。またなじみの方との触れ合いを大切に外出計画を家族と計画を行った。	関係継続の支援に努め、家族、親族の協力を得て知人に会いに行ったり、墓参り、買い物、外食などに行っている。公民館に出かけた時に知り合いから声をかけてもらう人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	○利用者同士のコミュニケーションがとれる様にテーブル席などにも配慮したり、会話の中で様子によっては職員も加わり穏やかに過ごせる環境に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	○サービスの終了後も家族がおられない場合は、様子を見に伺ったり、遠方の家族に対して情報提供を行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○親族がおられない方には、本人の思いを傾聴しストレスにならないよう、外出、買物など本人と相談しながら検討している。	マンツーマンの時に話を聞いたり、言いやすい職員に気持ちを伝えられた時には全職員で共有し連携して対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○サービスが開始前に事前に、今までの生活環境、経過、趣味など把握しこれまでの暮らしの継続ができるよう、職員が情報を共有し、これからの生活環境になじめるよう配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	○本人のできることに、意欲の持てること、など一人一人の能力を理解し、生活に張りを持たせるよう心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	○介護計画に基づき、毎月一人一人の計画に築きや、変化など話し合い計画に盛り込み反映していくようにしている。	職員全員で話し合いながら計画を作成している。年に2回、利用者、家族も参加して担当者会議を開き、計画内容を説明したり意見を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	○個別の記録の中には実践して評価があるが、詳細を記録し情報を共有化し介護計画に組み入れるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	○職員の積極的な意見、会議等での話し合い発想の転換など取り組むようになっているが、利用者全員にいきわたった状況ではない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	○公民館、地域の活動など掌握しサービスの多様化を図れる様に見当はしているが実際には実現されていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	○事前に家族の希望や、今までのかかりつけ医による定期的な主治医の往診や、家族による受診を行っているが事前に文書にてDrに報告し、家族や、医療機関との連携を密にしている。	新たに往診報告書を作成し、事前に医師に報告することで医師や医療機関との連携がスムーズに行われるようになった。歯科医師の協力があり口腔機能の維持向上に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	○介護職との連携、築きにより本人の以上の早期発見、など介護士の観察が重要となっているため連携は密にし、主治医との連携を行いながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	○入院された場合は、医療相談室等にも連携を持ち早期の退院ができるよう、面会時に様子を伺ったり相談も行う、長期入院の場合は密な話し合いを行って今後について話あっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	○現在は医療の依存度が高いケースがありまた夜間の看護体制ができていないため終末期のついては現状できない状況である。	ホームでできる最大限の支援を考えている。夜間には不安があるが、「心構え」や待機職員の体制を作り職員も方針を共有している。管理者の適切な判断でギリギリまで支援できた事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	○緊急体制の苑独自のマニュアル等、AEDの研修など実際研修に出かけたものが、再度苑内研修につなげている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	○災害時の対策については現在備品の注文を行っている最中である。	年2回訓練を実施し、現在備蓄品の準備に取りかかっている。近隣の民家にも協力をお願いをしている。	定期的な訓練の他にも自主訓練に努め、職員の非常時への対応力を高めたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	○尊厳を大切にしご本人の意向に沿うよう配慮した対応を行うよう、介護等でも話し合っている。お互いに気をつけながら注意し合っていくようにしている。	利用者の気持を尊重した対応を心がけ、入浴や排泄など同性介護をしたり自分では自分でやってもらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	○本人の意思を尊重した言葉かけによりご本人の意向を大事に対応できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○まず本人の意向を伺い本人の思いで行動できるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	○施設内ではあまりしていないが、外出時には化粧をしたり、理美容の希望を受け対応している。また洋服などの購入については本人と一緒に出かけ希望の買い物をしていただくように心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○食事の好き嫌いなど一人一人の好みを把握し、食事が楽しくできるよう、食材の変更、調理の仕方、など工夫している。またご自分でできる食材の準備、なども協力していただきながら行っている。	重度の利用者が増え一緒に作業することは減っているが、できる人には箸配りや台拭き、食器洗いなどしてもらっている。家族の要望で夕食にフルーツをつけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	○水分量の把握により脱水の予防、その人の好みに合わせたものを提供している。体重の変化にも気を配り、栄養の低下などDrと相談しながら補助食品を使う場合もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	○毎食後の口腔ケアには力を入れており、義歯の調整、等視界との連携を密にしている。また舌苔などの予防に下のケアも心がけることにより風邪などの予防にも役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	○排泄の際はできるだけ時間を見計らいトイレ誘導を行っている。体調不良になった後も状態に応じては、おむつはずしに心がけるようにしている。	利用者の状況に合わせて誘導を行いトイレで排泄ができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	○離床の時間を多く持ち、水分摂取、運動を心がけているが、排便困難な場合は医師と相談し便秘薬で調整する場合もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	○本人の希望に沿った入浴の声かけを行っている。またゆっくり入浴していただけるよう浴槽を変更して行うこともある。	デイサービスの特殊浴槽を使用することで拒否のなくなった利用者がある。毎日大体3名位の人が入浴できるように支援している。	困難な状況はあるが、入浴は日課の中での位置づけとなるような支援を望みたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	○本人が眠りたいと希望される場合は意向に沿った対応を行っている。また休息についてもいつでも横になれる炬燵で過ごされる方もおられる。夜間は気持ちよく眠れる様冬は湯たんぽ、電気あんかなどの対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	○服薬の確認チェック機能を生かし誤薬のないよう心がけ症状の変化に気づき対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	○地域のお店の一角に作品展示をしていたり、それに向けての目標を持ち作品を作る意欲が見られる。またその作品を見に出かける機会も作られた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	○外出の希望があった時は意向にそつ得るよう計画を立て外出を行っている。家族と一緒に受診などで出かけられる際は合わせて外食など本人の希望により対応していただいている。また誕生日など家族と食事に出かけられるケースもある。家族の協力がいない場合は職員で対応している。	散歩や買い物、ドライブ、運動など、利用者の希望が叶えられるように支援している。個別ケア計画を立て、家族とも協力しながら外出の機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	○ご本人の気持ちを大切に自分で管理したい方については少額を持っておられる。また買い物に出かけられる時は預かっているお金を持って付き添って出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	○ご本人が、電話をかけたいと希望される時は対応をしている。また居室に電話をせちされている方もありますが今では自分でかけることはできない状況なので外からかかってくる場合があります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	○職員の声のトーンや、テレビの音など共有空間の整備にも気を配るようにしている。	季節感のある手作りの作品や行事の写真などを飾り落ち着いた環境作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	○利用者同士気の合った関係など把握し、過ごしやすい場を提供したり、日々の変化に対応できるようその場その場により対応できるよう心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	○個人の思いや、使い慣れたもの、好みのものを置くことにより落ち着いた雰囲気作りに対応している。	利用者の力が活かせるように洗濯物干し場を作ったり、プライバシー確保のためにカーテンを付けたり、希望の物を持ち込んでもらい利用者に合わせた居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	○本人の希望に添い自分で出来ることへの支援自室の掃除など出来ることを行うことで自分らしい生活ができるよう対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	○理念は職員がいつでも見れるようABユニットの廊下に掲げているが、常に認識しながらの行動はできていないが、利用者の尊厳が守られるよう心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	○地域運営推進会議、地域の公民館でのよらい喫茶、地元の神社の祭り、もちつきに参加など、機会があればできるだけ参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	○地域の方にも認知症の人の理解をさせていただけるよう交流会や、災害時の協力などをお願い出来るよう日頃から行事参加などにも声をかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	○運営推進会議においては、利用者の現状報告、サービスの実態、取組について報告し、包括支援や介護保険課などの情報を共有し、サービス向上に役立てている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	○運営推進会議においては市の介護保険課のご意見を伺ったり、不明な点があれば積極的に出かけ意見を伺い反映できるようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	○身体拘束については日ごろから職員間で話し合い、拘束にならない対応について検討し危険を伴う場合に関しては家族に十分な説明を行い同意を得て出来るだけ短時間での対応を心掛けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	○利用者の尊厳を守るためにも、会議等で話し虐待防止に努めている。研修等にもできるだけ参加できるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	○権利擁護については、親族の関係が薄い方など今後はかかわっていく必要があるのですが、研修は今年度は出かけていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	○契約の締結、解約、改定の際は十分な時間をとり十分説明し、理解を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○年2回家族様との交流、面会時のご意見、要望事項、伺い、会議、文書等により周知し反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	○毎月の会議の中で意見や、提案事項については検討協議し反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	○職員の要望事項を踏まえ、現在、勤務体系の見直し、パート業務の時間見直し、年間休日の見直し、など、職場環境をと整える等検討中である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○現場での実践指導、外部研修、等により個人の能力、適性を考慮し、研修後の内部研修、「AEDの使い方」など研修の参加に今年度は力をいれた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○同業者との連携、訪問、など部会での交流を機会に情報交換などサービスの質の向上に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	○新規入居にかかわる際、事前に訪問、見学など入居当初に不穏のないよう本人の気持ちを傾聴し不安を取り除き安心してサービスが受けれるようコミュニケーションを重ね信頼関係を築く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	○サービスの利用前に事前に訪問及び見学いただき、情報交換を行い、家族の思い、要望など傾聴し、家族との信頼関係を築き、言いやすい環境を作る中でサービスに生かしていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	○本人の担当ケアマネ等の連携を密にし、本人と家族が安心してサービスが受けられるよう情報の共有を行い早く環境に慣れていただくためにもこまめな、個別の対応を行い安心してサービスが受けれるよう努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	○ご本人の能力を生かし生きがいのある生活ができるよう本人の意向に沿うよう協調した関係を築くように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	○面会時には近況を説明し、万代店やご本人の様子を共有し、また本人が家族と安心して過ごしてもらえ環境を心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	○家族や、親族、友人の面会時はゆっくりくつろいでいただけるよう環境づくりを行っている。またなじみの方との触れ合いを大切に外出計画を家族と計画し行った。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	○利用者同士のコミュニケーションがとれる様にテーブル席などにも配慮したり、会話の中で様子によっては職員も加わり穏やかに過ごせる環境に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	○サービスの終了後も家族がおられない場合は、様子を見に伺ったり、遠方の家族に対して情報提供を行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○親族がおられない方には、本人の思いを傾聴しストレスにならないよう、外出、買物など本人と相談しながら検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○サービスが開始前に事前に、今までの生活環境、経過、趣味など把握しこれまでの暮らしの継続ができるよう、職員が情報を共有し、これからの生活環境になじめるよう配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	○本人のできること、意欲の持てること、など一人一人の能力を理解し、生活に張りを持たせるよう心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	○介護計画に基づき、毎月一人一人の計画に築きや、変化など話し合い計画に盛り込み反映していくようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	○個別の記録の中には実践して評価があるか、詳細を記録し情報を共有化し介護計画に組み入れるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	○職員の積極的な意見、会議等での話し合い発想の転換など取り組むようになっているが、利用者全員にいきわたった状況ではない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	○公民館、地域の活動など掌握しサービスの多様化を図れる様に見当はしているが実際には実現されていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	○本人の望む医療機関を優先に家族の希望も踏まえ受診しているが、身体機能の低下も見られるようになると施設への依存度が高くなっている。定期的には往診が主である。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	○介護職との連携、築きにより本人の以上の早期発見、など介護士の観察が重要となっているため連携は密にし、主治医との連携を行いながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	○入院された場合は、医療相談室等にも連携を持ち早期の退院ができるよう、面会時に様子を伺ったり相談も行う、長期入院の場合は密な話し合いを行って今後について話あっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	○現在は医療の依存度が高いケースがありまた夜間の看護体制ができていないため終末期については現状できない状況である。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	○緊急体制の苑独自のマニュアル等、AEDの研修など実際研修に出かけたものが、再度苑内研修につなげている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	○災害時の対策については現在備品の注文を行っている最中である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	○尊厳を大切にしご本人の意向に沿うよう配慮した対応を行うよう、介護等でも話し合っている。お互いに気をつけながら注意し合っていくようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	○本人の意思を尊重した言葉かけによりご本人の意向を大事に対応できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○まず本人の意向を伺い本人の思いで行動できるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	○施設内ではあまりしていないが、外出時には化粧をしたり、理美容の希望を受け対応している。また洋服などの購入については本人と一緒に出かけ希望の買い物をしていたくように心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○食事の好き嫌いなど一人一人の好みを把握し、食事が楽しくできるよう、食材の変更、調理の仕方、など工夫している。またご自分でできる食材の準備、なども協力していただきながら行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	○水分量の把握により脱水の予防、その人の好みに合わせたものを提供している。体重の変化にも気を配り、栄養の低下などDrと相談しながら補助食品を使う場合もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	○毎食後の口腔ケアには力を入れており、義歯の調整、等視界との連携を密にしている。また舌苔などの予防に下のケアも心がけることにより風邪などの予防にも役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	○排泄の際はできるだけ時間を見計らいトイレ誘導を行っている。体調不良になった後も上田に応じては、おむつはずしに心がけるようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	○離床の時間を多く持ち、水分摂取、運動を心がけているが、排便困難な場合は医師と相談し便秘薬で調整する場合もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	○本人の希望に沿った入浴の声かけを行っている。またゆっくり入浴していただけるよう浴槽を変更して行うこともある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	○本人が眠りたいと希望される場合は意向に沿った対応を行っている。また休息についてもいつでも横になれる炬燵で過ごされる方もおられる。夜間は気持ちよく眠れる様冬は湯たんぽ、電気あんかなどの対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	○服薬の確認チェック機能を生かし誤薬のないよう心がけ症状の変化に気づき対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	○地域のお店の一角に作品展示をしていただくことがあり、それに向けての目標を持ち作品を作る意欲が見られる。またその作品を見に出かける機会も作られた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	○外出の希望があった時は意向にそつ得るよう計画を立て外出を行っている。家族と一緒に受診などで出かけられる際は合わせて外食など本人の希望により対応している。また誕生日など家族と食事に出かけられるケースもある。家族の協力がいない場合は職員で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	○ご本人の気持ちを大切に自分で管理したい方については少額を持っておられる。また買い物に出かけられる時は預かっているお金を持って付き添って出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	○ご本人が、電話をかけたいと希望される時は対応をしている。また居室に電話をせちされている方もありますが今では自分でかけることはできない状況なので外からかかってくる場合があります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	○職員の声のトーンや、テレビの音など共有空間の整備にも気を配るようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	○利用者同士気の合った関係など把握し、過ごしやすい場を提供したり、日々の変化に対応できるようその場その場により対応できるよう心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	○個人の思いや、使い慣れたもの、好みのものを置くことにより落ち着いた雰囲気作りに対応している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	○本人の希望に添い自分で出来ることへの支援自室の掃除など出来ることを行うことで自分らしい生活ができるよう対応している。		